

田野々の棚田

田野々の段畑は上勝で最も大きい段々畑で、比較的低い標高（300 から 400 m）に位置しています。これらの段畑は阿波晩茶を作るための茶葉の栽培にも利用されており、茶畑や水田の景色と香りが共に豊かな感覚的経験に織り込まれています。

景観

この段畑地域は山々と旭川に囲まれています。それぞれが約 300 平方メートルの面積を持つ、1,092 枚の水田があり、全体で 32.84 ヘクタールに及びます。この段々畑の最高の景色の一つは、曾我部昌史氏（1962 年生まれ）によってデザインされたアート・インスタレーション、もくもくもの頂上から見たものです。この大きな木造建築の天辺には階段で上ることができ、周辺の川、山々、段畑、茶畑そして近隣のきのこ栽培施設など、この地域全体を見渡すことができます。

かおり風景

阿波晩茶は今も田野々で少なくとも 400 年前と同じ製法で作られています。茶葉を蒸したり、丸めたり、天日干ししたりするときに放出される香りは、農園から 30km も離れた所にまで広がり、夏には天日干し中の茶葉が棚田の空気をその香りで満たします。この地域は 2001 年に日本のかおり風景 100 選のひとつとして環境省に選ばれています。

農業の守り神

この地区にはもくもくからそう遠くないところに小さな神社が数多くあり、それらはすべて多種多様な農業の神々を祭ったものです。その一つが茶神八幡神社で、複数の木の柱で支えられたひとつの岩でできています。この神社は、地元の言い伝えで阿波晩茶の製法をこの地にもたらしたとされる平家の落人、横尾権守を祭っています。もう一つは北向きの観音で、文字どおりの意味は「北を向いた観音」となります。この観音（慈悲の神）を祭っている祠は北、すなわち茶神八幡の方角を向っていますが、日本の神社の大半は南を向いているので、これは珍しいことです。しかし、その違いの明確な理由はわかっていません。